

第 53 回『わかるように伝えていきますか』

香川大学 坂井 聡

先月号で紹介した文部科学省の調査の結果は、当然、教育現場にも反映されることになるでしょう。前回の調査の結果は、平成 23 年から順次新しくなっている学習指導要領に反映されています。

その詳細を説明した学習指導要領解説には、発達障害ということばこそ使われていないのですが、「自閉症」や「ADHD」、「LD」ということばが使われ、学校においてその特性に応じた教育上の配慮が必要であることが明文化されているのです。

ここで注目されるのは、義務教育である小学校、中学校だけではなく、高等学校の学習指導要領解説のなかにも、障害のある生徒の指導における配慮事項（第 1 章第 5 款の 5 の (8)）で、「自閉症」や「ADHD」、「LD」ということばが、はっきりと記載されているという点です。

高等学校に進学する生徒のなかに、発達障害のある生徒もあり、その生徒に対する特別な支援が明記されたということなのです。

ここでは、高機能自閉症とアスペルガー症候群とを同じカテゴリーとして考えて話を進めていくこととし、その特徴的な症状について整理しておきたいと思います。

○人間関係を作るのが苦手

高機能自閉症やアスペルガー症候群のある人の最も大きな特徴は、人間関係を作るのが苦手だということです。孤立していてもあまり気にしなかったり、一人遊びを好む傾向が強かったりします。場の雰囲気を読むことが苦手なので、周りが困惑したり、傷つくような発言を平気でしたりすることもあります。もちろん悪気があるわけではありません。相手がどのように感じているのかがなかなか考えられないということなのです。

また、ゲームなどをする場合には、仲間と協力してプレーすることが苦手で、一番になったり勝つことだけにこだわったりすることがあります。そして、決まりごとやルールに厳格で、正義感が強く融通がきかないことが多いため、周囲の人に受け入れられない経験をすることも多いと考えられます。

○コミュニケーションすることが苦手

高機能自閉症やアスペルガー症候群のある人は、コミュニケーションすることが苦手です。相手の興味や関心におかまいなく、自分の言いたいことを一方的に話したり、難しい言葉を使って話すことや形式的な言い回しにこだわったりすることがあります。そのため、やり取りであるはずのコミュニケーションが成立しにくくなってしまうのです。

また、言葉の裏の意味を理解することが苦手なため、冗談やユーモアが理解できなかったり、字義どおりに解釈したりすることがあり、その結果、傷ついてしまうことも多いと考えられます。

○こだわりが強いが、想像するのは苦手

高機能自閉症やアスペルガー症候群のある人は、自分の興味のあることや、こだわりのあるものには熱中し、それに関連することには、その人の普段の行動からは想像できないくらい能力を発揮することがあります。興味や関心の対象は様々で、電車や車、恐竜、昆虫、カレンダーなどです。小さいころは「〇〇博士」などと呼ばれていることも多いのもこのためです。

その一方で、想像するのは苦手です。人の気持ちや考えなど見えないものを推測することが特に苦手なため相手の気持ちがわからないために不安になったり、はっきりものを言ってしまったりしてトラブルになることがあります。

○独特の感覚や知覚

高機能自閉症やアスペルガー症候群のある人のなかには、聴覚、触覚、臭覚、味覚などに、極端に敏感だったり鈍感だったりする人が少なくありません。自傷行為の原因が感覚の鈍感さである場合もあるようです。逆に感覚が敏感な場合は、人に触れられることを極端に嫌がったり、周囲の人が気にならない程度の蛍光灯の光がまぶしすぎると感じたり、蛍光灯から発せられるきわめて小さい音が気になったりすることもあります。大きな声や音などは、パニックの引き金になることも少なくありません。

また、味覚や臭覚の過敏性は、強い偏食の原因にもなることがあります。

○運動面での不器用さ

高機能自閉症やアスペルガー症候群のある人のなかには、運動が苦手な人が少なくありません。縄跳びやマット運動、ボールを使ったスポーツなどが特に苦手なことが多いようです。運動する際には体の各部位の動きをイメージし、そのイメージに合うように各部位の動きを企画、指令を出す作業が必要になります。これがうまくいかないと、協調した運動がうまくできなくなってしまいます。協調運動の困難さは、文字を書くときや絵を描くときにも影響を与えることになります。また、細かい作業が苦手だったりすることとも関連があると考えられています。

このようなところで、困っていることがある人たちののです。では、次回は新しい環境に対してどのようなことが課題になるのかを考えていくことにします。

坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞(著書)
暮らしの中のコミュニケーション(やまびこの里) クラシルームコミュニケーション(こころリース出版会) 自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア(エンパワメント研究所) など